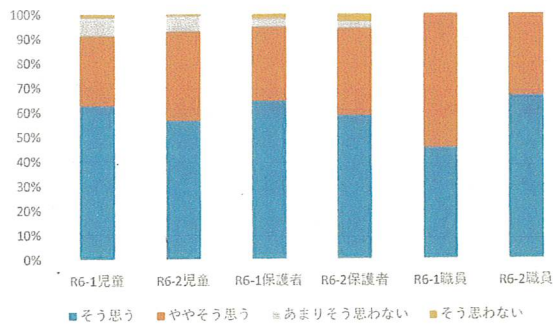
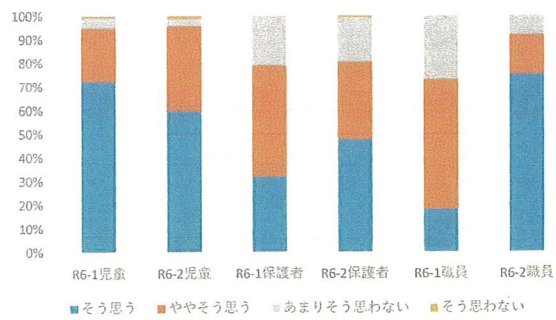


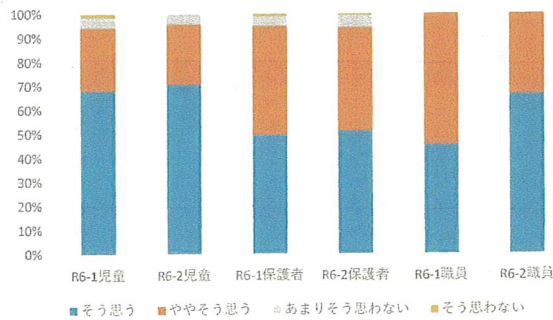
1. 子どもたちは、元気に登校し、楽しく学校生活を送っている



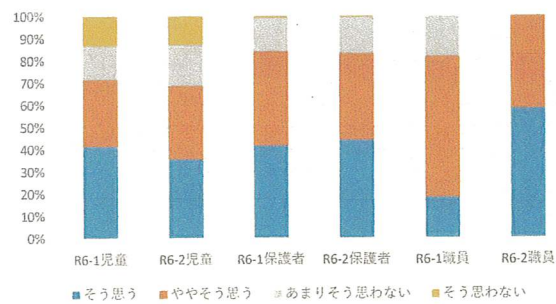
2. 子どもたちは、気持ちの良い挨拶や返事ができる



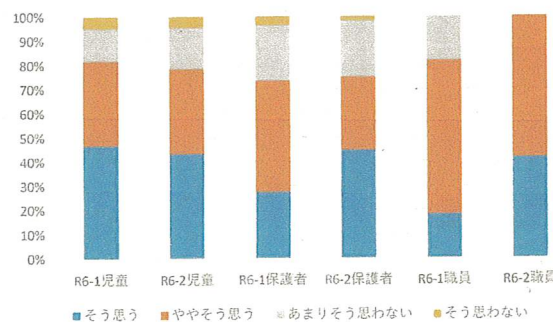
3. 子どもたちは、友達と仲良く生活している。



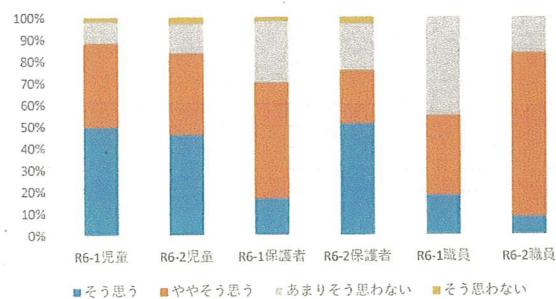
4. 子どもたちは、不安なことや困ったことを相談することができる



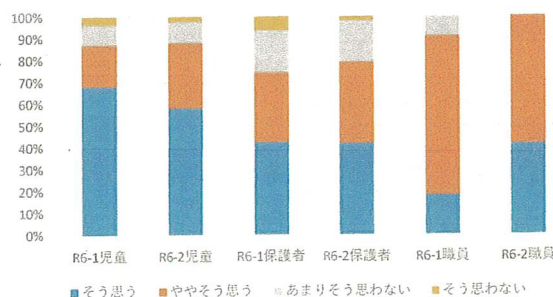
5. 子どもたちは、進んで学習に取り組んでいる



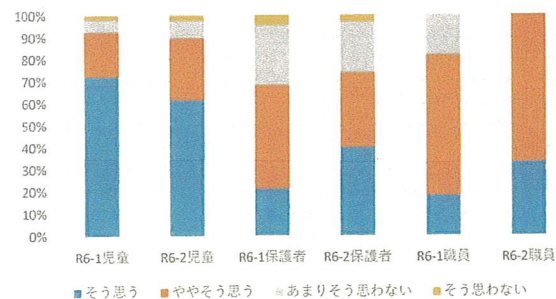
6. 子どもたちは、話をよく聞き、自分の考えをはっきり話すことができる



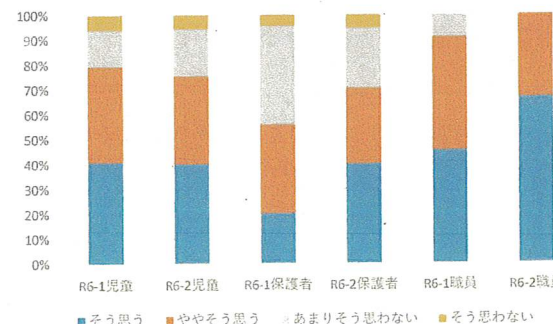
7. 子どもたちは、進んで運動に取り組む、体力を高めようとしている



8. 子どもたちは、夢や将来の目標をもって。また、めあてをもって生活している



9. 子どもたちは、掃除や係活動などに進んで取り組んでいる



【児童に関する質問についての分析・考察】

（質問1について）

学校が楽しいと回答している児童は93%、1回目と比較すると微増しているがまだ、6.6%（12名）の児童があまりそう思わないと回答している。保護者は、1・2回目では、95%の方が元気に登校し学校生活を送っていると感じている反面、5.8%（10名）の方は、否定的な回答が見られる。職員は、1・2回目ともほぼ肯定的な意見である。否定的な児童に対して、その子どもたちの特性を見極めながら、○「達成感」「満足感」のある学校生活を送ることができるように、わかる授業、楽しい活動の構築。○「居場所」、「充実感」のある学校・学級作りを目指し、縦割り班活動、特別活動の活性化を図りながら改善を図ってきたい。

（質問2について）

「あいさつ・返事ができている」の問いに肯定的に回答している児童は、95%で1・2回目ともに高い回答になっている。保護者は、1・2回の比較では微増であったが、81%の方が、肯定的な回答であった反面、19%（34名）の方が否定的な回答であった。職員は、1・2回の比較では、肯定的な回答が20%増加し、ほぼ全員の職員が気持ちのよいあいさつ返事ができていると感じている。生徒指導重点項目の一つとして4・5月に生活目標として取り上げていること、計画委員会による中台社会福祉協議会と合同の年4回のあいさつ運動、毎日の職員のあいさつの精励等がこの結果に繋がっている。コミュニケーションのスキルの第一歩として今後もあいさつは大事にしていきたい。

（質問3について）

「友達と仲良くしていますか」の問いに1・2回目とも95%の児童が肯定的に回答し、4.4%（8名）が否定的な回答をしている。保護者は、1・2回目ともに94%の方が、肯定的な回答、5.2%（9名）の方が否定的な回答であった。職員は、ほぼ肯定的な意見である。集団生活を送る中で、行き違いや、考え方の相違などにより、円滑に関係が築けないケースも出てくる。教育相談を実施しながら事情を聞き解決を図ることはもちろんのこと、自分でも周囲と折り合いをつけながら、生活を送るスキルを発達段階に応じて学べるように今後も支援していきたい。

（質問4について）

「心配なことや困ったことを誰かに相談することができますか」の問いに1・2回の比較では、児童の肯定的な意見は、3%減で68.7%となっている。否定的な回答は、3%増で、31.3%（57名）であった。保護者は、1・2回の比較で肯定的な回答が1%増83.3%、否定的な回答は、17%となっている。職員は、ほぼ肯定的に捉えている。相談できないと考えている子どもたちが、周囲の大人が考えている以上に多い結果となった。学校での学期に1回の教育相談、教育相談員・スクールカウンセラーの周知等、毎日、職員がチャンス相談を行い、対応しているが引き続き、相談しにくい部分を払拭していきたい。相談がしやすい雰囲気を作るために、傾聴力を高め、中立的な立場で相談者の話を受け入れ、しっかりと聞く姿勢を持つことを大切にしていく。そして、偏見のない対応を心がけ、信頼関係の構築を目指していきたい。また、相談者の視点を尊重し、多様な意見や背景を理解しようと努めていきたいと考える。私たち学校・教職員は、子どもたちだけでなく保護者に対しても、もっと心を開き、いっしょに悩み考えながら不安や問題に取り組んでいける良い信頼関係をつくっていくとよいと考える。保護者が気軽に相談できる、不安な気持ちを吐き出してみようかなと思える学校・教職員になる努力・工夫が必要である。

（質問5について）

「進んで学習していますか」の問いでは、児童の回答は、1・2回の比較で否定的な回答が3%減少し、21%（38名）となった。保護者は、1・2回の比較で肯定的な意見が増加し、75%の方が回答している。職員は肯定的な意見が18%増加し、ほぼ全員が回答している。子どもたちが進んで学習に取り組むため、集中できる環境を整えることや、宿題も含め、必要な教材を揃えることで、子どもたちが学びに集中できるようにしていきたいと考える。本校では「主体的に学び、表現できる児童の育成」という主題で学習活動・指導の向上のため研修に取り組んでいる。授業では、なぜその学習が重要なかを説明し、実生活にどのように役立つかを理解させることで、学ぶ意味を見出させている。自分で課題を選んだり、学習の計画を立てたりすることで、自主的に学習する姿勢を育んでいる。これらの方法を通じて、子どもたちが学びのプロセスを楽しみ、積極的に取り組むことができるように今後もサポートを継続していく。

（質問6について）

「話をよく聞き、自分の考えをはっきり話すことができる」の問いでは、児童の回答は、1・2回の比較で否定的な意見が4%増え、16.4%（30名）となった。保護者は、否定的な意見が5%増え、24.7%（42人）、職員は、否定的な回答が28%減少し、25%（3名）が回答している。自分の考えを話すことができる子供に育てるために、まずは、子供たちが自分の考えや感情を表現できるように、批判を受けずに安心して話せる場を作りたいと考える。その際には、子供たちの話を注意深く聞き、理解を示すことで、話すことへの自信を育て、うなずいたり相槌を打ったりして、話に関心を持っていることを伝えていきたい。また、子供たちが、自分の考えを深めるために、オープンエンドの質問を使って会話を促進していく。例「それについてどう思う?」「なぜそう思う?」子供たちの意見を尊重し、たとえ異なる意見を持っていても共感を示すことで、意見を持つことが大切であると感じさせたい。

（質問7について）

「進んで運動に取り組み、体力を高めようとしている」の問いでは、児童は、肯定的な回答が3%増加し、87.9%（154名）が回答している。保護者は、肯定的な回答が5%増加し、78.8%（137名）の方が回答している。職員は、ほぼ肯定的な回答である。授業の中で栄養や健康的な生活習慣について学ぶ時間を設けたり、食育の一環として、栄養士による講話を実施している。また、業間など休憩時間に活発に運動できるようにしていく。更に、家庭での実践を奨励し、親子で参加できる運動イベントを紹介し、家庭内での健康意識を高めしていく。また、日常生活での適度な運動やバランスの取れた食事の重要性を伝える。これらの取り組みにより、児童の健康意識を高め、持続的な体力向上を図っていく。保護者との連携を強化し、家庭と学校が一体となって子どもたちの健康を支援していきたい。

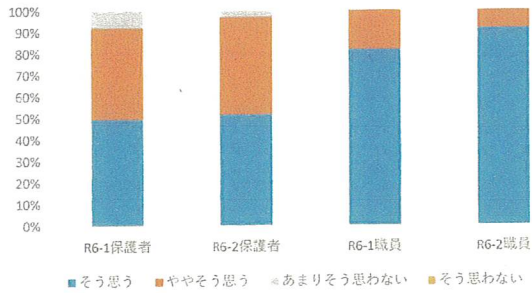
（質問8について）

「夢や将来の目標をもっている。また、めあてをもって生活している」の問いでは、児童の肯定的な意見が3%減少し、89.5%（163名）が回答している。保護者は、肯定的な意見が2%減少し、80.7%（140名）が回答している。職員は、ほぼ肯定的な意見である。将来に向けて漠然とする中、キャリア教育における基礎的汎用能力の育成は、現代の社会で非常に重要なテーマである。基礎的汎用能力は、特定の職業に限らず多くの職場や生活の場で役立つスキルである。個人のキャリアの拡大に貢献し、社会においても価値がある。学校教育の活動を通じてこれらのスキルを身につけていきたい。そのために、高等学校まで継続して活用される、キャリアパスポート（行事前後の振り返り）に積極的に取り組みたい。生活目標や学級目標を立て、それに対する振り返りを行うことは非常に重要である。これにより、子どもたちは自分自身の成長を実感し、自信を深めていくことができると考える。目標設定のステップでは、目標の明確化、具体的な行動計画、モチベーションの維持を確立したい。また、振り返りのポイントとして、ポジティブなフィードバック、改善点の特定を行う。そして、自己評価を定期的に行い、自分の価値を確認し、子どもたち一人ひとりが自分の強みに気づき、それを活かすことができるようにサポートする。自信を深め、自尊感情の育成を図り、夢や目標を持つ原動力にしたい。

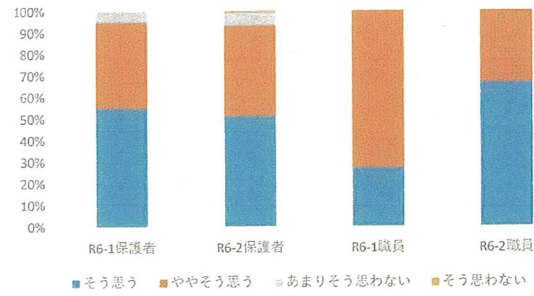
（質問9について）

「学校やおうちで、進んでお手伝いをしていますか」の問いに、肯定的な回答は4%減少し、75.3%（137名）が回答している。保護者は、肯定的な回答が5%減少し、70.7%（123名）が回答している。職員は、ほぼ肯定的な回答である。掃除・係活動を頑張る子どもたちは、本当に素晴らしいと感じている。彼らの頑張りに対する自己評価が謙虚すぎるというののは、彼らの持つ誠実さや責任感をも示しているとも思う。しかし、彼らの努力と貢献を適切に評価し、認めることはとても重要である。子どもたちがやっていることがどれほど素晴らしいか、教室や学校全体の環境にどれほど良い影響を与えているか、直接的な感謝の言葉などを示すことで、彼らのモチベーションをさらに高めるきっかけにしたい。日々の努力を称えられることで、自信を持ち、さらに成長することができるよう支援していければと思う。

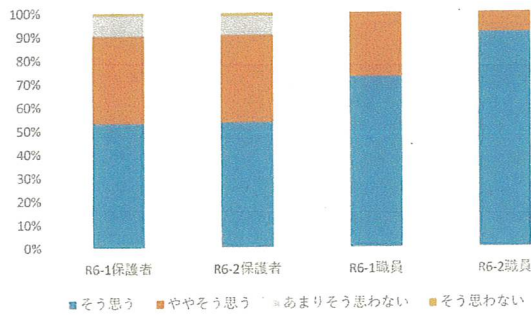
1. 学校は、学校教育目標やめざす児童像を、お便りやメール配信等を通して、保護者や地域にわかりやすく伝えている



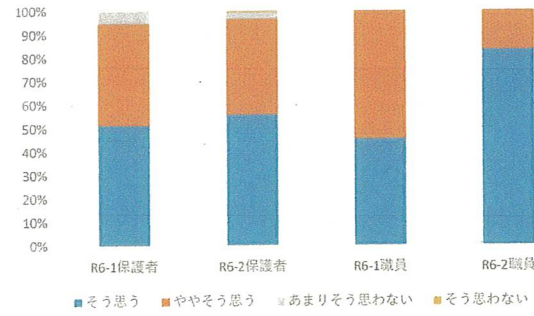
2. 学校は、わかりやすい授業を行い、児童の学習意欲や学力の向上に努めている



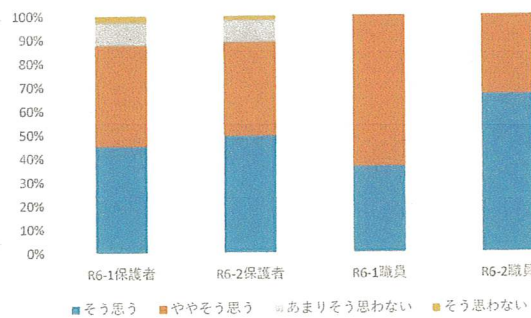
3. 学校は、いじめや暴力のない学校づくりに努めている



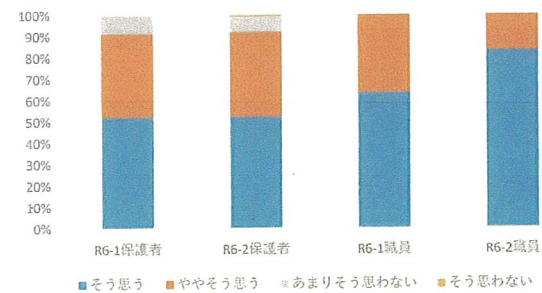
4. 学校は、校内の環境美化や安全管理に努めている



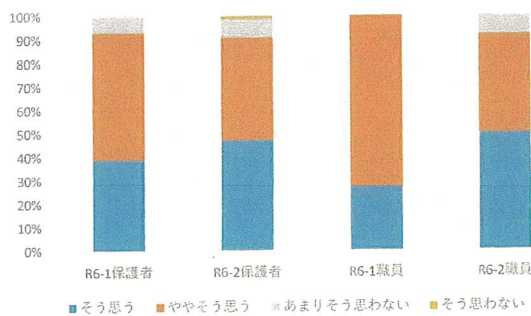
5. 学校は、児童の健康や体力の向上に努めている



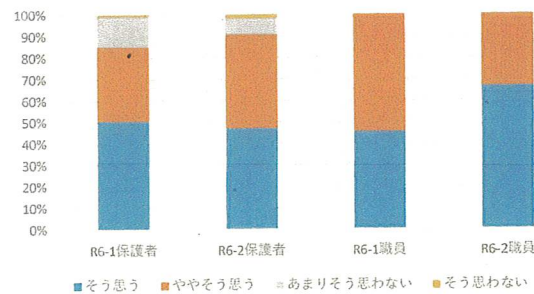
6. 学校は、児童や保護者が相談したことに對して、誠実に対応している



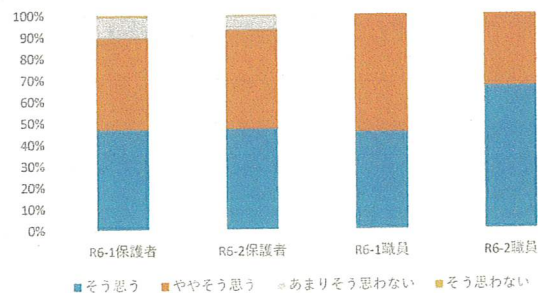
7. 学校は、特別支援教育の充実と理解促進に努めている



8. 学校はタブレット端末を積極的に活用するなど、ICT教育の充実に努めている



9. 学校は保護者や地域と積極的に協力・連携し、児童の健全育成に努めている



【学校に関する質問についての分析・考察】

（質問1について）

「学校は、学校教育目標や目指す児童像を、お便りやメール配信等を通して保護者や地域にわかりやすく伝えている」の問いでは、保護者の意見は1・2回の比較では、肯定的な回答が、5%増え、97.1%（169名）が回答している。職員は、否定的な回答が8.3%（1名）増えた。前回までの学校評価で指摘が多かったメールサービスの活用を改善（欠席等の連絡をマチコミでできるようにしたことや手紙を紙ではなくできる限りデジタル配信にしたこと）できたことが高評価につながったと考える。今後も学校評価はもちろん、保護者との談笑等から得られる学校改善のヒントをキャッチして改善に取り組みたい。そのためにも、保護者と気軽に、気兼ねなく話せるような良好な関係づくりが今後も大切である。デジタルに頼らず、直接会って顔を見て話すことを重視して取り組んでいきたい。

（質問2について）

「学校は、分かりやすい授業を行い、児童の学習意欲や学力向上に努めている」の問いには、保護者は、肯定的な回答が1%減少し、93.1%（162名）が回答している。職員は、ほぼ肯定的な回答である。肯定的意見がわずかだが減っている。学校での子どもたちの学習・生活の様子が保護者にとってブラックボックスとなっていることが要因の一つなのだろうか。授業参観等の行事を抜本的に見直し、本来の（いつもの）子どもたちの様子が保護者に伝わる工夫・努力をしていく必要がある。

（質問3について）

「学校は、いじめや暴力のない学校づくりに努めている」の問いでは、保護者は、1・2回の比較で差はなく、90.8%（158名）が肯定的に回答している。職員はほぼ肯定的である。わずかな変動ではあるが、保護者との信頼関係を築いていく上で最も重要かつ基盤となるいじめ防止や安全管理については、常に意識を高くもち、より厳しい自己評価をしていかなければならない。保護者の意見が二極化してはならない項目であることをあらためて確認し、全職員で次年度以降も真摯に誠実に取り組んでいきたい。

（質問4について）

「学校は、校内の環境美化や安全管理に努めている」の問いでは、保護者は肯定的な回答が2%増え、96.5%（168名）が回答している。職員は、ほぼ肯定的である。安全管理については、常に意識を高くもち、より厳しい自己評価をしていかなければならない。保護者の意見が二極化してはならない項目であることをあらためて確認し、全職員で次年度以降も真摯に誠実に取り組んでいきたい。

（質問5について）

「学校は、児童の健康や体力向上に努めている」の問いでは、保護者は、肯定的な回答が1.5%増加し、89.1%（155名）が回答している。職員は、ほぼ肯定的である。児童の健康と体力向上のための、学校での取り組みは、健康教育として、授業の中で栄養や健康的な生活習慣について学ぶ時間を設けている。子どもたちの健康状態や体力測定の結果を定期的に保護者に報告し、改善点や対策を伝えている。また、食育の一環として、栄養士による講義などを実施している。活発に運動できるように、業間など休憩時間において、校庭や遊具を活用し、身体を動かしている。また、体育の活動（鉄棒や縄跳びなど）を休み時間でも練習するなど運動自体が授業と休み時間でリンクすることも多い。今後は、親子で参加できる運動イベントを提案し、家庭内での健康意識を高めていきたい。日常生活での適度な運動やバランスの取れた食事の重要性を伝え、家庭での実践をサポートをお願いしていく。これらの取り組みにより、児童の健康意識を高め、持続的な体力向上を図ることが可能となると考える。保護者との連携を強化し、家庭と学校が一体となって子どもたちの健康をサポートすることが重要である。

（質問6について）

「学校は、児童や保護者が相談したことに對して、誠実に対応している」の問いでは、比較に差はなく、保護者の方は肯定的に91.9%（160名）が回答している。職員は、ほぼ肯定的である。今後も、保護者の方や児童からのご相談を大切にし、どのような小さなことでも、誠実に対応していくことを心がけていく。より良い教育環境を築くための貴重な手がかりとしていく。

（質問7について）

「学校は、特別支援教育の充実と理解の促進に努めている」の問いでは、保護者は、肯定的な回答が2%減少し、90.2%（157名）が回答している。職員は、否定的な回答が8.3%（1名）増加した。特別支援教育の推進は、多様なニーズを持つすべての子どもたちが公平に質の高い教育を受けることを目的としている。障がいを持つ子どもたちを含むすべての子どもたちに対して、個々の能力に応じて適切な支援を提供していきたい。家庭の協力が不可欠であり、保護者や家族と連携して、子どもたちに最適な教育を提供することを心がけたい。多様性を尊重しインクルーシブな社会を形成するための重要なステップとなると考える。

（質問8について）

「学校はタブレットの端末を積極的に活用するなど、ICT教育の充実に努めている」の問いでは、保護者は肯定的な回答が5%増加し、90.8%（158名）が回答している。職員は、ほぼ肯定的である。肯定的意見がわずかだが減っている。学校での子どもたちの学習・生活の様子が保護者にとってブラックボックスとなっていることが要因の一つなのだろうか。タブレットを活用している場面など、本来の（いつもの）子どもたちの様子が保護者に伝わる工夫・努力をしていく必要がある。

（質問9について）

「学校は、保護者や地域と積極的に協力・連携し、児童の健全育成に努めている」の問いに、保護者は肯定的な回答が4%増加し、93.2%（162名）の方が回答している。職員は、ほぼ肯定的である。学校が保護者や地域と協力・連携することは、児童の健全な育成に重要な役割を果たす。学校の活動や児童の学びについて情報を共有し、また、保護者や地域の人々にボランティアとして学校活動に参加していただく。今後も、学校、保護者、地域社会の三者が協力し合い、児童の成長や学びを支えていきたい。